

＜今日の説教のポイント I コリント書7章8～16節＞

自分の信仰がどれほど柔軟な信仰であるか、試される箇所です。

①先週のおさらい：性交自体は汚れていない。理性なき欲望が問題。

今日の箇所の出だし(8-9)でも、パウロは性交について率直に話します。性交自体は汚れとは関係ない、愛の印である出産と関係する行為であって、問題は理性で抑えきれない人間の欲望なのです。

②パウロの信仰：主の教えの単なる繰り返しでなく！

10節以降でいよいよ離婚について語りますが、まずここで興味深いのは、パウロは主が命じたことを単に繰り返すのではなく、問題状況に応じて論じていることです、つまり、「こう命じるのは、わたしではなく、主です」(10)「その他の人たちに対しては、主ではなくわたしが言うのですが」(12)。すぐに聖書という引き出しから答えを出そうとするのではなく、まず目の前の状況をよく見つめて、起こっている問題を信仰的に柔軟に考えることが大事だということです。

③離婚は罪か？ 消極的肯定として認められる場合がある。

「離婚は罪か」という問いに対して、パウロは②で述べたことを用いています。すなわち、「罪だ」とか「罪ではない」とかいった答えを返すのではなく、いろんなケースを考えながら、それぞれにふさわしい答えを返していくのです。つまり、離婚も認められる場合があるということです。私がこの問いを出された時にいつも用いる表現があります。つまり、「離婚は、消極的肯定として認められる場合がある」と。消極的肯定、それは、離婚せずにい続けたなら、ますます相手を憎むようになるような場合は、消極的肯定として認められる、ということです。15-16節の内容こそ、原理主義的ではない、柔軟な信仰のあり方をよく示してくれていると思います。

④汚す力より「神様の聖める力」が強いことを信じているパウロ！

12-14節の、未信者のパートナーと別れなくていいかの問いに対するパウロの答えも、自分が相手によって汚れることを恐れるより、神様と共にある自分が持つ「神様の聖める力」の方が強いことを本当に信じて柔軟に愛を持って対応できる信仰の姿をよく示しています。私たちの信仰もこうありたいものです。